

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームさくらがおか
(ユニット名)	3階
所在地 (県・市町村名)	栃木県宇都宮市桜2-3-3
記入者名 (管理者)	長谷川 礼子
記入日	平成 21年 3月 10日

(様式 1)

事業所名:グループホームさくらがおか

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームだけの理念ではなく、法人として「ふれいあ」「対話」「やさしさ」を理念として、利用者一人ひとりがその人らしく地域で暮らせるよう支援している。	○	常に理念を念頭に置き、利用者が住みなれた地域で最期まで穏やかに生活出来るよう援助する。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時、ユニット毎に理念を読み上げ、日々確認している。また、困難事例にぶつかった時、理念に立ち帰り考えを修正している。	○	職員一人ひとりが常に理念を念頭に置き、行動できるような日々の唱和は続けていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入所の契約時や、運営推進会議時には、ホームの理念を家族、地域の方々に説明しているが、地域の方が理解出来ているかは不明である。	○	機会あるごとに地域の方々に説明し、理解を得ていくよう努力する。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事への参加を促したり、運営推進会議でホームの状況を説明する等して、まずは知ってもらう事から始めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会が活発な活動をしていないため、難しい点がある。	○	学校の運動会や、地域の清掃などを自主的に実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症介護の専門家として、管理者、職員ともに認知症サポーター養成講習会を開いている。また、1階スペースを自治会・民生委員・ケアマネジャー等の会議に開放しており、地域の高齢者のために役立っている。	○	平成20年度は認知症サポーター養成講座を5回開催した。今後も実施していく予定である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、自己・外部評価の結果を全スタッフに確認してもらい、出来る事とそうでない事の認識を持って仕事にあたってもらっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第3月曜日に実施し、参加者への報告や評価についてはサービスに取り入れたり、改善に役立っている。	○	家族の参加をさらに呼びかけ増やしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症サポーター養成講座の開催について、担当者と打ち合わせをし、開催時は担当者に参加して頂きアドバイスをもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会の実施は、現在出来ていないが、自立生活支援事業を利用している利用者はいらる。	○	権利擁護についての勉強会は今年度中に実施する予定。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての勉強会は、現在実施出来ていないが、事業所内で、虐待が行われないよう管理者が職員に話をしている。	○	高齢者虐待関連法についての勉強会は今年度中に実施する予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は管理者が立会い、家族の疑問点についてはその場で説明し納得頂いている。</p>	○	<p>主に管理者が説明し契約しているが、ユニットリーダーの立ち会いも実施したい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的に利用者からの意見を参考にケアにあたっている。また、家族からの意見、要望も反映させている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族来所時には、必ず、利用者の状況を報告し、毎月末、金銭出納帳を精算し、確認して頂いている。また、毎月「さくらだより」を発行し、利用者の暮らしぶりを報告している。</p>	○	<p>職員入社の際は、「さくらだより」に、紹介している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの相談や苦情は管理者に報告し迅速に対応している。また、契約時、公の苦情対応機関を明示し、説明している。本年度は、苦情は聞かれなかった。</p>	○	<p>今後、苦情が見られた際は、速やかに対応する。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、ユニットカンファレンスと全体カンファレンスを開催し、理事長、管理者と直接話し合いをし、意見を述べ合い、実施できる事については、即実行に移している。また、日々の行事は毎朝の朝礼で打ち合わせを実施している。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況は常に確認し、困難事例等には職員の配置を厚くするなど、柔軟に対応している。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>一度に複数の異動は行っていないが、定期的な職員異動により、どの職員も全フロアのケアができるような取組みを行っている。</p>	○	<p>今後も移動は否めない。移動時の利用者へのダメージへの配慮は今後も継続していく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や、リーダー研修、指導者研修、管理者研修などに参加したり、月1回職員勉強会を実施している。また、外部から講師を招き専門的な勉強会を開催しているほか、全国グループホーム大会に参加している。	○ 今後も経験年数により、順次研修を受けていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会に参加する事で、他事業所の人と交流を持つ機会はあるが、特定の事業所との相互訪問の機会を持ってはいない。	○ 近隣の同種類事業所との交流を考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事の時間外に、職員同士で食事をしたり、飲酒などをしてストレスを解消する事もある。理事長主催の宴会もある。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人としての毎年の目標とフロアの毎月の目標を設定している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時面接や入所後の対応として傾聴する時間を意識してとり、本人の不安な心境やストレスを把握し、解消できるように努めている。	○ 今後も、本人の不安を解消できるような援助を継続していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム長(ケアマネジャー)を中心にアセスメントを実施し、家族の希望を伺い、出来る範囲で希望を取り入れている。この際、本人の希望を優先し、本人が判断付かない状態のときは、家族の要望を取り入れる。	○ 認知症という事で、本人の意思が疎外されやすい。出来るだけ本人の意思を尊重していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	当ホームで出来る事、受け入れられる状態かどうかの判断も 含め、本人に一番適切と思われる支援を心がけている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	家族と一緒に来所し、見学して頂いたり、日帰りでの体験を 実施してホームの雰囲気の馴染んで頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事を中心に利用者から教えて頂くという姿勢を持ってお り、お礼や感謝のことも十分に伝えている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	家族の立場に立ち、来所時には話し合いの場を持ち、信頼 関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援 している	今までの家族との関係を配慮し、今後もより良い関係を続け られるよう本人及び家族の希望を聞き入れ、調整している。 また、面会は24時間受け入れ体制をとり、自由に面会でき るような環境を作っている。	○	家族来所時には、家族からの要望を聞き、出来る限り要望 に沿った援助をしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に努 めている	いつでも面会に来られる体制をとっており、複数の面会者の 場合でも対応できる場所がある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	家事を一緒に行う工夫をしたり、利用者の中に職員が入る事 でスムーズな関係が持てるよう努力している。	○	認知症の進行の状態によっては、言い争いになる事もある。 職員の能力アップを図り、スムーズな対応が出来るよう 努力する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホーム長を中心に、退所時家族に対し、介護に対する悩みや相談を継続して受け入れる事を説明し、そのような体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理強いする声掛けはしないよう出来るだけ本人の望む生活が送れるよう心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントから、本人の生活歴を探り、居宅ケアマネジャーからも情報を収集している。また、今まで利用していたサービス事業所とも連携し、入所前の状況を把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	身体状況と、居室巡視は1日2回実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を用いて本人の状態把握に努め、そこからニーズを探る作業をしている。また、家族に対しても説明を行い要望を聞いて反映させている。	○	認知症の重度化した利用者にも、選択方式等で本人の意向が伺えるよう支援していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の気づきや変化をチェックする書式を利用して計画に活用している。状況の落ち着いた利用者に関しては、期間を短くする事で対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	○	地域ともしっかりと関わりを持ち活動に参加していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化した場合は、家族、医療機関と連携し、職員全員で方針に従い支援に当たるようにしていく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>重度化した場合は、家族、医療機関と連携し、事業所として出来る範囲での援助をし職員全員で支援に当たるようにしていく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>入所時は力を入れて取り組んでいるが、退所時も退所先と十分な情報共有を行う事でダメージの減少に努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活歴を考慮した上で、本人を傷つけないような会話をするよう心掛けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日のレクリエーションや食事、日常生活における活動内容について選択できる工夫をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気分や体調に注意しながらの声掛けを行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は本人希望を出来るだけ取り入れた選択ができています。髪美容に関しては、近所の顔馴染みの店に行き、好きな髪型にカットしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意思を尊重しながら出来る事を行いたい時に実施して頂くように心掛けている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買物時に、利用者が食べたい物を自分で購入出来る機会や、嗜好を伺い提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	まずはトイレの誘導や声掛けにて対応し、その他、ポータブルトイレの使用も含め、本人の排泄しやすい環境を作る事を心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理のない声掛けで、本人の入りたい時に入れるように対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとり個々に合わせ、寝たいときに寝て頂きたい。また、午睡をとる事で落ち着かれる方には、その時間を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	現在取組み中だが、自己選択による役割、外出援助を行っている。	○	分かりやすい形で表わす事でミスから好きな事を選ぶ工夫をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時に、利用者が自分で買物をしたいとの希望がある時は、本人に財布を渡し、職員付き添いの下、買物を実施している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在取組み中である。自己選択による外出支援。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近場での個別援助は行っているが、遠方への支援は出来ない。	○	日帰り一泊旅行も含め対応できたらと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で手紙を書けない人への代筆を行い、家族等との繋がりを密にする支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間制限無く面会は可能であり、いつでも自由に入出りできる。	○	共用の和室があり、いつでも来所者に開放している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をせず、利用者の思いのまま生活して頂く事を基本としている。また、朝礼時、身体拘束についてホーム長が注意を促し、全員に徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵は無く、玄関も日中は鍵をかけておらず、家族や他フロアの職員や利用者が自由に入出りしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	時間での巡視実施(昼2回、夜4回)。不穏や体調に特変ある場合はこまめに様子観察している。	○	玄関には利用者が気にならないくらいの音のする物が付いており、職員は常にその音を聞いて利用者の出入りに注意を払っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の理解度に応じて所持している物は違う。個別に対応できている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会や避難訓練を実施し事故防止に取り組んでいる。	○	普通救命講習を開催し、ほとんどの職員が受講している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	「ヒヤリ・ハット」を作成し、毎月のカンファレンス時話し合い、対応を考え、再発防止に当たっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回程度の避難訓練を実施し、避難誘導の方法を確認しているが、地域の人々の協力を得られる状況ではない。	○	近隣の方々には、常日頃から認知症の高齢者が居住していることを知って頂き、災害時は協力して頂けるようにする。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	特変者のみであるが、ADLの低下や認知症の進行からくる様々なリスクについて、状態と共に面会時に説明している。	○	全ての家族に対してリスクの説明を実施したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々、記録にチェック項目を作り、気づけるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、誤嚥のないよう十分な注意をしている。また、一人ひとりの服薬目的や副作用についても理解に努めているが、職員全員が理解しているわけではない。	○	全職員が理解できるよう努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	慢性的な便秘には、下剤を服用しているが、食事や運動、体操、散歩を行い便秘の予防を促進している。	○	排便の確認をし、異常があれば速やかにDr. に報告している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	全員への支援は夜のみで毎食後は行えていない。	○	毎食後の支援を心掛ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の工夫や栄養補助食品の活用メニューの工夫を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成し、発生があれば迅速な対応をする事になっているが、今までに発生の事実は無い。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等は、定期的に消毒を行い、食材は買い置きをせず、毎日買物する事で新鮮さを保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	「施設」と言う雰囲気を出さず、周りの環境に調和できる造りになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は、木のぬくもりが感じられる作りになっており、音も金属音でなく、木と木が触れ合う音になっている。また、季節に合わせた飾りを考慮し、利用者にさりげなく季節を教えられるよう考慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内は畳コーナーが3箇所あり、人目に付かないスペースも確保できており、利用者同士が話をしている姿が見られる。また、仲の良い友達、話ができるベランダもある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印) (取組んで行 きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、利用者の使い慣れた物・思い入れのあるもの持込を家族に依頼し、自由に置いて頂き、本人が安心できるよう支援している。また、ベッドを使用している人もいれば布団で寝ている人もいる。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に温度・湿度の調整をし、窓の開閉にて空気の入替えを実施している。また、においに関しては、家庭的なおいにこだわり、汚染物のおいには絶対にさせないよう心掛けている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は、利用者がさりげなく頼れる手摺りのような造りが施されており、残存機能を自然に発揮して生活が出来るよう配慮されている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所の混乱を防ぐ為、必要な利用者には、氏名や場所を分かり易いところに表示している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	都市型の建物でスペースが限られている為、ベランダにプランターを備えたり、屋上を利用して花を植えたり洗濯物を干すなど活用している。		

V. サービスの成果に関する項目

項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	③たまに
		④ほとんどない
98	職員は、生き活きと働けている	①大いに増えている
		②少しずつ増えている
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	③あまり増えていない
		④全くいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
		①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
		①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)